

・防災としての浸水想定区域図※の策定について

・過去の災害からの教訓、災害情報等の伝達、地域での井戸の活用について



清風クラブ
おがわ つよし
小川 剛



詳しい内容は
こちら

日本のどこでも地震や異常気象は起こります。これまでの色々な災害の経験から、自然災害の発生は防げませんが、災害に備え準備を進める事で被害を減らせる事を学びました。

災害時のトイレ環境の充実。市内で活躍するキッチンカーとの災害時の協定による温かい食事の提供。また、市内の大きな病院や老人施設が保有する、停電時の非常用発電装置への行政での燃料確保・調達や、各施設の燃料種類・容量・稼働時間等の把握を進める施策について聞きました。

また昭和10年に安中で発生した大災害から90年が経過します。後閑川や増田川の被害は県内で最も激しく、死者・行方不明者合わせて60

名となりました。過去の災害を忘れずに次世代に伝える方策について質問しました。能登地震では長期の断水が発生し民家の井戸が役立ちましたので、安中市内行政区毎の井戸の把握と活用について聞きました。



2024年9月豪雨での
西上秋間小林地区の土砂災害

※浸水想定区域図…近年、想定を超える浸水被害が多発し、水災による被害の軽減を図るため、河川氾濫の場合に浸水が想定される区域と水深を示すもの

・防災、減災対策の推進について

・市民ギャラリーについて

1項目目は防災・減災対策の推進についてです。阪神・淡路大震災から30年、東日本大震災から14年が経過しました。自然災害は、今なお、日本をはじめ世界中で人々の生活を脅かし続けています。今日においては、科学技術は格段に進歩していますが、地震などの自然現象を正確に予知することは今もできません。よって、不測の自然災害から身を守るためには危険を忘れず、今できる備えを怠らないことが肝要です。そこで、市庁舎における避難訓練、地域の防災対策、学校における防災教育、携帯トイレ等の備蓄、住宅の耐震化について質問しました。

2項目目は、市民ギャラリーにつ

いてです。文化活動は、創造力や表現力を高めるとともに心のつながりや相互に理解し合う気持ち、多様性を受け入れることのできる豊かな心を育むものです。市民文化の向上を図ることから、本市の展示施設の現状や今後のギャラリーの整備について質問しました。



市庁舎で行われた避難訓練



公明党
ながしま ようこ
長嶋 陽子



詳しい内容は
こちら